

(第1圖) 樺太廳鐵道、野久線平面略圖、

## 樺太廳鐵道野久線

### 野田泊居間工事竣工

樺太廳鐵道事務所 鈴木保  
延設係長

(總 說) 野久線野田久春内閣鐵道は大正10年第46議會に於て敷設決定し、翌11年實測に着手し同14年11月第1工區及第2工區土工其他工事を起し、越へて同15年12月には第4工區を、昭和2年12月には第3工區を請負に付し、路盤の竣工に従ひ野田方より順次軌條を敷設し、停車場官舎其他諸建物の工事を起し、本年6月野田追手間26軒の營業を開始し、次で追手泊居間軌道諸建物等を起工し、今般追手泊居間16軒の開業を見るに至れり。

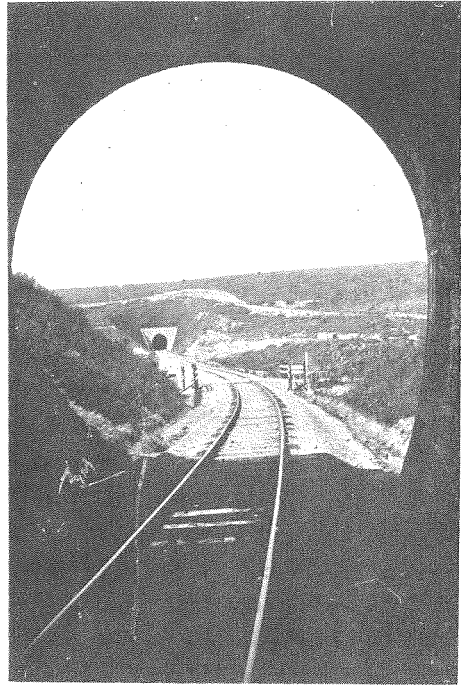
(線路の狀勢) 樺太廳鐵道西海岸線の北端野田驛(本斗起點93軒970米)を起點として北進し、野田町市街を貫流する鉢子川に徑間30呎鉸桁8連を架し、梅香隧道(延長1,089呎)を掘鑿し、久良志部落に出で其北端に久良志荷客扱所を設置し、海岸に沿ひて北進し、亞牛附近にて丘陵に上り、荒鯉川に蔬水隧道を設け、築堤によりこれを横斷し、本斗起點109軒170米の地點に小岬荷客扱所を設置し、右轉左折大迂回して「チーカイ」山道の險の避け、再び海邊の高臺に出で、第3工區に入るや風光明媚なるも地形起伏定りなく知登、釜牛、追手の三隧道を穿ち、多數の



(第2圖) 樺太廳鐵道の樺太野久線(野田久春内閣)の始點なる野田停車場及野田町の景。野田町は西海岸に在り、人口多し人、樺太廳鐵道の終端となつてゐるが、新線建設に依り、野田驛より野久線追手迄昭和五年六月一五日開通し、追手泊居間は同十一月一日開業した。

蠶谷を埋めて進み、泊居町大字追手南方の平坦なる高地に追手停車場(本斗起點120杆160米)を設け、更に北進して追手川橋梁に飯桁徑間60呎8連(延長517呎4吋)を架設し、左に追手市街を瞰下しつつ右曲北進し、127杆890米の地點に杜門荷客扱所を設け、直ちに杜門川に飯桁徑間60呎4連20呎1連を架し、中の澤橋梁を渡り、遠く伊皿、釜伏の靈峰の水平線上に浮ぶを眺めつ、牧草茂れる丘陵上を進み、右折して泊居町に入り、本斗起點136杆30米の地點に泊居停車場を設く。本區間は最小半徑10鎖50節、最急勾配40分の1軌條60封度、軌間3呎6吋、最高築堤104呎、最深切取60呎なり。

|       |             |              |
|-------|-------------|--------------|
| 築堤    |             | 129,163立坪868 |
| 切取    |             | 124,506立坪684 |
| 停車場地築 | 盛土          | 7,530立坪086   |
|       | 切取          | 4,835立坪397   |
| 本線土留  | 混凝土壁        | 617面坪653     |
| 橋梁    | 7ヶ所         | 總延長1,523呎6   |
|       | 最長          | 追手川517呎3     |
| 隧溝    | 總計          | 4ヶ所總延長2,333呎 |
| 道渠    | 總計          | 25ヶ所         |
|       | 開渠5         | 疏水隧道4 函 渠10  |
|       | 拱渠4         | 管 渠2         |
| 伏樋    | 總延長         | 8,823呎5      |
|       | 鐵筋混凝土管101ヶ所 | 箱樋33ヶ所       |
| 軌條    | 下水渠6ヶ所      |              |
|       | 60封度第3種     |              |
|       | 本線實延長42杆767 |              |
|       | 側線延長7杆357   | (以下略)        |



(第3圖) 樺太廳鐵道の樺太野久線。釜牛隧道(延長825呎)より追手溪道(延長891呎)の南口を眺めた風景。昭和5年6月15日開業。

(第4圖) 樺太廳鐵道の樺太野久線。杜門川橋梁(総長60呎4連、30呎1連、高河280呎0吋)昭和五年十一月一日開業。(建設費總額、四七六萬餘圓。杆當り約一一萬三千餘圓。事請負者)加藤金次郎(第一、第三工區)。濱藤米七(第二工區、第四工區)。

